



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/

広報

中部の森林



治山・林道工事コンクール



長野林政記者クラブ賞



中日造林賞

各種授賞式が開催される

(P 4～5に関連記事)

| | | |
|------|----------------------------|-------|
| 主な項目 | ○平成17年度第3回森林管理署長等会議等 | P 2 |
| | ○平成17年度各種授賞式の開催 | P 4～5 |
| | ○各地からのたより | P 6 |



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

平成十七年度第二回森林管理署長等会議を開催

二月十五日(十七日)、森林管理局において署長等会議が開催され、平成十七年度事業の締めくくりと来年度の業務運営、事業担当部長等会議関連の指示等について打ち合わせが行われました。

◆局長訓示

- 全体会議では、小祿局長から、
- ①十七年度各種事業の実施状況について
 - ②行政改革の動き
 - ③綱紀の粛正
 - ④当局の特徴を踏まえた管理経営
 - ⑤収入確保に向けた取組
 - ⑥情報の一元化・一本化・透明化等について訓示がありました。

◆次長訓示

- 続いて矢内次長から、
- ①名古屋事務所の運営
 - ②局・事務所・署全体の情報の共有
 - ③名古屋城本丸の修復の動き
 - ④岐阜県での全国植樹祭の開催
 - ⑤伐採系森林整備の取組
- 等について訓示がありました。

◆総務部長説示

- 引き続き各部長から、
- ①労働安全衛生の確保等(労働安全の確保、交通安全の確保、心身両面にわたる健康管理)、②綱紀の粛正、③労働時



署長等会議の様子(大会議室)

◆計画部長説示

- 問短縮のための取組、④給与等の全額口座振込、⑤新組織発足に伴う取組、⑥給与等支給定日の早期化、⑦研修・広報等について、
- ①計画樹立、②境界保全管理、③国民参加の森づくりの推進、④森林環境教育の推進、⑤貴重な森林や動植物の保護対策、⑥技術開発の推進と普及、⑦林野・土地売り払い関係、⑧国有財産の管理関係、⑨森林の保全管理、⑩分収林関係、⑪レクサリフレッシュ対策、⑫官行造林関係等について、

◆森林整備部長説示

〈十七年度事業〉①林産物収入、②補正予算、〈十八年度事業〉①生産・販売(林産物収入の見通し、予算の適切な執行)、②森林整備事業(更新・保育、間伐等の実施、林道等の整備)、③治山事業(保安林制度の適切な運用、治山計画の策定に当たつての留意事項、景観形成事業推進費、災害等の速やかな対応)、〈請負事業体の安全確保〉等について、の説示がありました。

引き続き各課長等から連絡、検討事項の説明後、意見交換があり会議を終了しました。

国有林モニター会議 開催される

「企画調整室」二月十三日、平成十七年度の「国有林モニター会議」を中部森林管理局で開催しました。

国有林モニター会議は、国有林野事業が行っている様々な取り組みを直接説明するとともに、意見、要望等を聞いて、これを国有林野の管理運営に役立てることを目的として、平成十六年度から始まった国有林モニターの一環として行っているものです。

会議には六名の国有林モニターの皆様に出席いただき、当局からは局長、各部長、関係課長等が出席し、活発な意見交

換、質疑・応答等を行いました。

席上、「国有林の取り組みについてもっとPRを」、「下流の人々が上流の森を支えるような仕組みや、地域の人たちの協力を得る仕組みが必要」、「国有林が民有林を引っ張っていくようリーダーシップの発揮を」など国有林モニターの皆様が、国有林野行政に対する意見・提言のほか、モニター活動を通じた、森林や地域、地球の未来への思いなど、多くの発言がありました。

国有林モニターの皆様からいただいた意見等を参考にし、今後国有林野の管理運営を行っていきたくと考えております。

(国有林モニターアンケートは、八頁に掲載してあります。)



モニター会議の様子

レクリエーションの森の 今後の取り扱いについて検討

「国有林野管理課」二月十日、中部森林管理局局長応接室において、「レクリエーションの森のリフレッシュ対策」検討委員会を開催しました。

この検討委員会は、管内の有識者八名で構成されており、第一回目は全委員が出席されました。

中部森林管理局の「レクリエーションの森」は、昭和四十八年度に制度が創設されて以来、管内の国有林には自然観察教育林二十二箇所、森林スポーツ林八箇所、野外スポーツ地域二十六箇所、風景林五十七箇所、風致探勝林三十六箇所及び自然休養林十二箇所の合計百六十一箇所、面積約四万千坪のレクリエーションの森を設定し、「量的充足」を図り多様な森林とのふれあいの場の提供を通じて、豊かな国民生活や地域の活性化の推進に寄与してきました。

(3) 平成18年3月
しかしながら、レクリエーションの森に対する利用者のニーズは、活動プログラムやガイド、情報の提供等のソフト対策を重視して、ゆとりや満足度を実際に享受できるようにしたいとする「質的向上」を重視する方向に大きく変化しており、レクリエーションの森の設定から相応の期間が経過し、レクリエーションの森の施設の更新や整備等が十分にできない、高度化・多様化したニーズに職員が

対応できないといった状況になりました。

こうした状況変化の中、本検討委員会では、今後のレクリエーションの森の設定の見直しや活性化方策といった課題について、委員から多くの意見が出されました。

検討委員会での主な意見としては、設定の見直しについては、「レクリエーションの森が設定されている地元自治体等関係機関と十分調整を図った上で見直し等をするべき」などの意見がありました。一方、活性化方策については、「ニーズにあったソフト対策や受益者負担のあり方、地元との連携、情報の収集」など、活発な意見がありました。

この第一回目の検討委員会の意見を踏まえて、第二回目の検討委員会を二月に開催し、その後、大枠について取りまとめることとしております。

「ブナの郷カヤの平の森」抽選会

「国有林野管理課」ファミリー・フォレスト・ガーデンは子供から高齢者まで、家族や友人同士など小グループで、自由な発想で、自然とのふれあいを楽しみながら森林の中で過ごしていただくため、国有林を小面積に区画し、三年間の利用期間（一回限りの更新が可能で最長六年間）で一定の使用料で貸し出す事業です。

当事業は北信森林管理署管内の「カヤの平自然休養林」において、平成十二年度から「ブナの郷カヤの平の森」の愛称で実施しており、十八区画を設定し利用されています。

本年度は、設定から六年が経過したことから、返地となる区画について新たに利用者の募集を行ったところ、十一名の申込みがあり、三区画に七名の希望が競合したことから、二月十日、中部森林管理局において公開による抽選会を実施しました。

抽選会は、公正を確保するために第三者の立会い人として、地域的につながりがあるとともに「開かれた国有林」の取り組みに理解の得られる者として、NPO法人「信越トレイルクラブ」の顧問である財団法人飯山市振興公社 総括支配人 木村宏氏に依頼し、利用を希望する方が見守る中、厳正な抽選会が滞りなく

行われたところです。

北信森林管理署では、新たな利用者となられた方々に対し、カヤの平の豊かなブナの原生林の中での自然とのふれあい方について講習会を実施するとともに、秋には利用者との交流会等の機会を設けるなど、ファミリー・フォレスト・ガーデンを通じ、自由な発想で自然とのふれあいを楽しんでいただけるよう取り組んでいくこととしており、「国民の森林」として利用者から期待されています。



利用希望者が見守る中行われた抽選会



検討委員会の様子



平成十七年度 治山・林道工事 コンクールの表彰式



「森林整備課・治山課」平成十七年度
治山・林道工事コンクール表彰式が、二
月十日、中部森林管理局において開催さ
れました。

このコンクールは、治山工事及び林道
工事の適正化並びに施工技術の向上につ
いて関係者の意欲の高揚を図り、併せて
設計技術の向上に資することを目的に実
施しています。

今年度の審査対象工事は、平成十六年
度に実行した旧中部森林管理局管内及び
旧名古屋分局管内の工事の内、治山工事
百十二件、林道工事十三件についてそれ
ぞれ審査を行い、この中から優秀工事と
して治山部門・林道部門からそれぞれ二
件を林野庁へ上申したところ、治山部門
の一件が栄えある農林水産大臣賞を受賞
し、他の三件は林野庁長官賞を受賞しま
した。

また、治山部門の十四件、林道部門の
三件について中部森林管理局長賞を受賞
しました。

十日の表彰式は、旧中部局管内の受賞
者に対し行われ、高畑森林整備部長から
審査報告が述べられた後、小緑局長から
表彰状が手渡されました。

また、二月十四日には旧名古屋管内の

受賞者に対する表彰伝達式が名古屋市内
で行われ、矢内次長から表彰状が手渡さ
れました。

なお、農林水産大臣賞及び林野庁長官
賞の授与式は、二月八日に東京において
行われています。
受賞者は次のとおりです。

●旧中部森林管理局管内

〔治山工事部門〕

- ◎農林水産大臣賞
株式会社新津組 (小海町)
- ◎中部森林管理局長賞
瑞穂建設株式会社 (木島平村)
- ◎中部森林管理局長賞
馬曲川災害関連連治山工事 (北信署)
- ◎中部森林管理局長賞
株式会社今井工務店 (小谷村)
- ◎中部森林管理局長賞
横川復旧治山工事 (中信署)
- ◎中部森林管理局長賞
宮下建設株式会社 (伊那市)
- ◎中部森林管理局長賞
のたなぎ沢水源森林総合整備
工事 (南信署)
- ◎中部森林管理局長賞
木曾土建工業株式会社 (木祖村)
- ◎中部森林管理局長賞
戸沢災害関連連緊急治山工事 (木曾署)
- ◎中部森林管理局長賞
三留野土建株式会社 (南木曾町)
- ◎中部森林管理局長賞
長谷川復旧治山工事 (南木曾支署)
- ◎中部森林管理局長賞
株式会社名工土木 (南木曾町)
- ◎中部森林管理局長賞
ナメリ沢復旧治山工事 (南木曾支署)
- ◎中部森林管理局長賞
山崎建設株式会社 (飯田市)

〔林道工事部門〕

- ◎林野庁長官賞
林道工事
大渡沢復旧治山工事 (伊那谷総治)
- ◎林野庁長官賞
林道工事
林道新設工事 (南木曾町)
- ◎林野庁長官賞
林道工事
ムクリ沢林道新設工事 (南木曾支署)
- ◎中部森林管理局長賞
林道工事
中部森林管理局長賞 (上田市)
- ◎中部森林管理局長賞
林道工事
平野建設株式会社 (東信署)
- ◎中部森林管理局長賞
林道工事
大峰山保安林管理道新設工
事 (大桑村)
- ◎中部森林管理局長賞
林道工事
株式会社宮地組 (南木曾支署)
- ◎中部森林管理局長賞
林道工事
樽ヶ沢付知又林道新設工事 (南木曾支署)

●旧名古屋分局管内

〔治山工事部門〕

- ◎林野庁長官賞
株式会社西尾土木部 (瑞浪市)
- ◎林野庁長官賞
上矢作 (大フカ沢) 災害関連
緊急治山工事 (東濃署)
- ◎中部森林管理局長賞
中越興業株式会社・宮口建設株式会社
經常建設共同企業体 (南砺市)
- ◎中部森林管理局長賞
小又川 (一の谷その三) 復旧
治山工事 (富山署)
- ◎中部森林管理局長賞
大谷 (モトメ谷支溪A) 復旧
治山工事 (高山市)
- ◎中部森林管理局長賞
株式会社谷上組 (飛騨署)
- ◎中部森林管理局長賞
上小鳥 (長谷) 復旧治山工
事 (飛騨署)

事 (飛騨署)

◆協業組合日・C建設 (飛騨市)

◆黒内 (尾崎谷) 復旧治山工事 (飛騨署)

◆金子工業株式会社 (下呂市)

◆鹿山 (下呂俣谷支流) 復旧治
山工事 (岐阜署)

◆富田屋土建有限会社 (本巣市)

◆越波 (河内谷) 復旧治山工事
 (岐阜署)

◆株式会社安藤組 (豊田市)

◆段戸 (バラゴ沢) 復旧治山工
事 (愛知所)

◆株式会社水口土建 (高山市)

◆金山谷 (金山谷資材運搬路新
設) 復旧治山工事 (飛騨署)

◆中部森林管理局長賞
梅田組 (下呂市)

◆株式会社 乗政 (資材運搬路新設) 復旧
治山工事 (岐阜署)



小緑局長から表彰状を受け取る受賞者

第三十五回 長野林政 記者クラブ贈呈式

—三名の受賞者が表彰される—



〔広報室〕二月十七日、長野県内の森林・林業・緑化・木材・特産など幅広い分野において、その振興等に貢献された功労者に対する「長野林政記者クラブ賞」の贈呈式が長野市内で開催されました。

今年度は、長野県内の林業関係機関・団体等から推薦された者の中から、三名の受賞者が選ばれました。

贈呈式では、長野林政記者クラブの神主代表幹事（新建新聞社）から主催者代表のあいさつがあり、選考経過について報告された後、受賞者に賞状と記念品が贈呈されました。

引き続き、小緑中部森林管理局长、高野長野県林務部長、大日方長野県林業団体協議会長から受賞者の皆さんの功績を讃える祝辞が述べられました。

受賞された皆さんは次のとおりです。

◇三村 典彦氏（協同組合長野県信州からまつ工業会専務理事）

昭和六十一年に長野県職員を退職後、同工業会専務理事に就任し、その後専務理事に昇格。県林業指導所勤務時から携わってきたカラマツ加工技術の経験を生かし、カラマツの建築材・家具用材等の製品開発、乾燥技術の開発に取り組み

た。また、スギ・カラマツの内装用難燃材の建設大臣認定等にも中心的な役割を果たされた。

◇大橋 登氏（蘇山を育む会元代表）

昭和五十九年の「蘇山を育む会」発足時に、上松営林署OBとして積極的に携わり、結成後は木曾谷の森林の案内役として植物観察、地質勉強会などの開催に努められた。特に赤沢自然休養林におけるボランティア活動として、休養林内の案内・説明をはじめ、美化清掃、歩道整備、一部修景除伐等に取り組みされた。その後の活動は、NPO法人「木曾ひのきの森」へ引き継がれているが、現在も美化活動に活躍されている。

◇中島 信男氏（社団法人長野県猟友会元専務理事兼事務局長）

長野県職員を退職後、昭和五十八年に同猟友会の職員となり、猟友会の円滑な運営はもとより、狩猟や有害駆除に安心して従事できるよう各種事故の補償制度の確立に取り組みされた。また、長野県環境審議会委員を歴任するなど、農林業被害対策や鳥獣保護行政にも貢献された。

第五十一回 中日造林賞贈呈

—優良造林地など表彰—



「名古屋事務所」中部九県の優良造林地などを表彰する第五十一回中日造林賞

の贈呈式が三月一日、中日新聞本社で開催されました。

これは、中日新聞社と中部日本治山治水連盟が主催で、中部地方の林業発展に尽力されている個人や団体の優良造林地功労者を表彰し、その業績を一般に紹介することによって、広く造林に対する関心を高めるものです。長野庁・中部森林管理局、中部九県（愛知、岐阜、三重、静岡、長野、滋賀、福井、石川、富山）が後援しています。

贈呈式では、主催者の大島中日新聞社社長から「日本の林業を取り巻く環境は厳しいが、環境や治水などの面で林業を守るの重要なこと。今後も山と森を守り、地域社会のけん引役としてご活躍されることをお祈りします。」と挨拶がありました。このあと、矢内審査委員長（名古屋事務所長）の審査結果報告があり、小緑局長から長野庁長官賞を、大島中日新聞社社長から中日賞、奨励賞をそれぞれ受賞者に贈呈しました。

小緑局長から「山の手入れが必要と言っても林業を行う担い手がない。経営的に成り立てば若い人たちの従事者も増えてくるはず。今は昭和三十一年当時の材価にまで落ち込んではいませんが、小径木から木の皮に至るまで付加価値をつけて資源の有効活用を図れば、『山が油田になる』ことも可能であり、林業は活性化してくる。」と挨拶がありました。続いて、受賞者を代表して、優良造林地の部

門で長野庁長官賞に輝いた、三重県松阪市の寺岡 廣さんから「今後も精進を重ね、林業を通して地域に貢献できるように努力したい。」と挨拶がありました。

受賞者は二部門で七個人、二団体で次の方々です。（敬称は略）

【優良造林地の部】

▽長野庁長官賞 寺岡 廣（三重県松阪市）

▽中日賞 大窪外実雄（富山県砺波市）、丸山 巖（岐阜県下呂市）

▽奨励賞 野辺生産森林組合（長野県須坂市）、渡辺俊彦（福井県吉田郡永平寺町）

【造林功労者の部】

▽長野庁長官賞 木場六一郎（石川県金沢市）

▽中日賞 辰野孝義（滋賀県大神郡多賀町）

▽奨励賞 鈴木一朗（愛知県豊田市）、財団法人須山振興会（静岡県裾野市）



小緑局長から表彰状を受け取る受賞者

各地からのたより

種の飛び方がわかったよ!

「名古屋事務所」二月十五日、名古屋市立小幡小学校(名古屋守山区)において、本年度第二回目の森林教室を実施しました。

今回は、十一月四日に瀬戸国有林で実施した現地学習の復習として、①スライドによる森林の機能の復習、②飛ぶ種の模型作りを行いました。



種は飛んだかな

森林の機能については、「水を蓄える」、「山崩れを防ぐ」、「二酸化炭素を吸収し酸素を供給する」等の機能について質問も交えながら再確認を行い、現地学習を思い出し皆真剣に考え答えていました。

また、飛ぶ種の模型作りでは、事前に準備した折り紙等を使い、「マツ」、「アルソミトラ・マクロカルパ」、「シンジュ(ニワウルシ)」等の材料を各自組み立て、種の模型を完成させ、実際に飛ばしながら種の飛び方について学習しました。

二回にわたり森林教室を実施したことにより、森林の機能等についての理解がより一層深まったことと思います。

「森林環境教育」

「森林官実践研修」を実施

「岐阜署」二月二十八日～三月一日にかけて、管内の森林官十二名を対象に「森林環境教育・森林官実践研修」を開催しました。

今回の研修は森林環境教育の高まりから各地域からの要請にこたえるため、管内の森林官が自ら森林教室を実践できる体制を確立するために実施しました。

当管内は、北は御岳山・白山の亜高山帯にはじまり、南は金華山といった温帯林と南北に広がる管轄区域であり、植生や森林の生態は様々であり、森林に対する国民の要請も多岐にわたっているのが現状です。



樹木・草本類研修、森林散策研修

こうした中、各地域を管理する森林官のスキルアップを目指し、地域や国民のニーズに柔軟に対応するノウハウを養成するために今回、研修会を開催しました。

講師は、樽見森林官と森林インストラクターの洞口森林官を中心に「話し方研修」、「樹木・草本類研修、森林散策研修」、「実践研修」、「パワーポイントによる室内での森林教室」など多岐にわたる角度での研修を行いました。研修に参加した森林官もベテランから新任まで様々であり、実践研修では各班に分かれて行いましたが、各森林官は雨の中、冷や汗を掻きながら先生役を実践していました。

林野火災防護訓練を開催

「岐阜署」岐阜市消防本部は、二月二十八日、林野火災防護訓練を金華山国有林で開催しました。例年、林野火災のシーズン前にこの訓練は行われています。

岐阜森林管理署もこの要請を受け、岐阜森林事務所職員を中心に十名が参加しました。

今回の訓練は「午前八時二十分に金華山のケヤキ谷中腹付近で何かが燃えている」との想定で行われました。

職員達は金華山山頂に待機し、放水訓練開始とともに山頂においてジェットシューターによる消火訓練を実施しました。今回も訓練にあたり防災へりも出動し、岐阜市消防本部・岐阜市・岐阜観光索道・岐阜森林管理署の参加で行われました。



訓練で真剣な眼差しの職員



「シイタケ菌打ちと バウムクーヘン作り」に挑戦」 瀬戸で体験学習

「名古屋事務所」二月二十五日、名古屋市立志段味西小学校「ホタル部」の四、六年生が瀬戸国宥林において総合学習の一環として、シイタケの菌打ち作業と野外料理作りを体験しました。

同小学校は、ゲンジボタルの飼育やリサイクル活動等を通して、環境を壊さなまいという意志の強さ、環境に優しくふるまえる態度など「環境マインド」の育成に向けて総合的に取り組んでいます。一昨年は「名古屋スクールISO」の認定を受けるなど、名古屋の環境教育推進校として、環境教育をリードしている学校です。

シイタケの菌打ち作業は、四年目を迎えるにあつて、昨年経験した五・六年生が、四年生に指導しながら、皆で力を合わせて作業しました。初めに林内に切り倒したナラ等の除伐木を、長さ九十七センチメートルに切り、必要本数を林道まで運び出しました。次に、キャンプ場に運んで、原木に電気ドリルで穴を開け、シイタケ菌を培養した「種駒」と呼ばれる菌を金槌で一つひとつ埋め込んでいきます。

午後の野外料理は、「樹のお菓子」の意味を持つバウムクーヘン作りを体験しました。バターに卵や砂糖を加え、小麦

粉を混ぜて生地を作り、木棒を芯にして、一人ひとりが一本ずつ焼き重ねていきます。焼き上がりにナイフを入れると、見事な年輪模様に見事な年輪模様の音があがりました。



バウムクーヘンのお味は

「森林の働きや 大切さを学びました」

下品野小学校・はとり中学校

「名古屋事務所」二月二日、瀬戸市立下品野小学校において四年生の児童六十名が、総合的な学習の一環として、林業に対する理解を深め、環境保全の必要性を学ぶため森林教室に参加しました。

はじめにイラスト等を使った森林の働きについての話を聞いた後、ヒノキの輪切り板を使った木工クラフトで壁掛けを作りました。

森林の働きについては、酒向尾張森林官から、自作のイラストをはじめ、レンガとスポンジ等を使った、酸素や水の供給・土砂の流出防止等森林の持つ重要な働きについての話を聞きました。分かり易い説明に児童たちは関心を示し、森林の働きについて多くの質問がありました。

当日は、学校公開日であったため、家族の方たちも多数参加され、木工クラフトの時間では親子で力を合わせて作品に取り組む場面もあり、思い思いの作品を完成させ満足げでした。家族で森林の働きや重要性について関心をもっていたごく有意義な森林教室になった事と思います。

また、同日、名古屋市立はとり中学校一年生九名が名古屋事務所を訪れ、森林の現状や環境について勉強をしました。

はとり中学では毎年、自分たちが関心のある産業や団体などについてグループをつくり、実際に現地に行き、自分たちの目で確認・体験する「大名古屋を体験しよう」という野外授業を実施しています。その一環で名古屋事務所を訪れたわけですが、森林や環境についての座学だけでなく、名古屋では想像もつかない雪崩災害現地の航空写真を立体鏡を使っ

て立体視したり、ヒノキの間伐材を手鋸を使って実際に輪切りにする体験も指導しました。どの生徒もメモをとりながら興味深く話を聞いたり、年輪を数えたりしていました。



森林教室の様子



国有林モニター第2回アンケート結果

[企画調整室]

国有林モニターの、第2回目のアンケートは、「自然とのふれあい」をテーマに実施しましたので、その結果をお知らせします。

問 中部森林管理局は、国有林をフィールドとして子供達が森林の中で自由に遊び学び、様々な体験活動ができるよう森林管理局と学校等が協定を結ぶ「遊々の森」制度に取り組んでいます。森林管理局が行っているこうした取り組みについて知っていましたか？

回答 「全く知らなかった」が半数近くを占めたほか、約2割の方が「聞いたことはあるが具体的にどんなことをしているかは知らなかった」でした。

問 中部森林管理局ではボランティアとして森林づくりに参加したいという「森林づくりに参加したい」皆様の要望に応えるため「ふれあいの森林」を設定しています。皆様の森林づくりへのお考えは？

回答 「行政任せでなく、森林ボランティアなど国民一人一人の問題として、考えるべき」と「森林ボランティアとして参加したい」が多くを占めました。

問 「レクリエーションの森」という言葉を聞いたことがありますか？また、利用したことがありますか？

回答 「聞いたことがある」は約8割、「利用したことがある」は約4割でした。

問 これからどのように登山道の整備を進めていけばよいと思いますか？

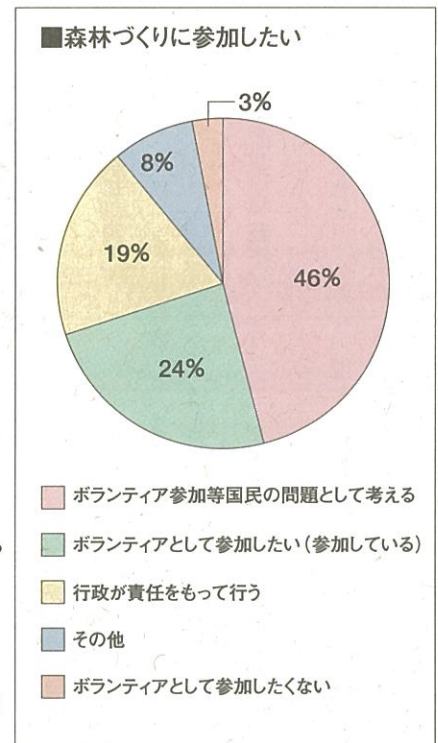
回答 費用の負担については、「利用者に負担を求めるのはやむを得ない」との意見が多くを占めましたが、「国が負担すべき」、「広く一般からも協力を負担してもらおうべき」等の意見もありました。また、整備のあり方については、「行政、山小屋、ガイド組合などが行うべき」や「利用者等にボランティアとして参加してもらおう」などの意見のほか、「必要以上の整備の必要はない」などの意見もありました。

問 登山道で事故があった場合の責任はどのように考えますか？

回答 「自己責任である」という意見が多くを占めましたが、必要な安全対策や、情報発信など管理責任が果たされていることが条件との付言も多数ありました。

問 「自然休養林」では、休養林内の美化・森林整備などに協力いただくための「森林環境整備推進協力金」のお願いをしています。このような利用者の協力による整備の取り組みについてどのようにお考えですか？

回答 「協力金を徴収すべき」あるいは「協力金の徴収も仕方ない」等、概ね協力金の徴収は必要との意見が大半を占めましたが、これらの中には、「協力金の使途を明らかにすることが必要」、「広く合意を得た上で実施すべき」、「国も負担すべき」などの意見がありました。



「青空と白銀のもと」 春スキーでリフレッシュ

「国有林野管理課」今年が多雪により多くの残雪が残り、中部森林管理局管内の国有林を活用したスキー場では、今までにない残雪のなかく多くのスキー場で春スキーを楽しめるゲレンデコンディションになっています。

今シーズンは五月中旬頃まで春スキーを楽しむことのできるゲレンデが数多くあります。陽春の日差しを浴びて、青空と白銀のコントラストのなか気分爽快に滑降を楽しみませんか。冬季シーズンとはひと味もふた味もちがった開放感を味わうことができます。



深雪の中をスノーシューで散策



スキー場はシーズン真っ盛り

また、スノーシューをはいて、林間コースの散策や山スキーを楽しむこともお勧めです。
ご家族や友人同士で春のゲレンデにぜひお越し下さい。



神坂森林事務所が新築

「東濃署」昨年11月より、中津川市神坂に建設中でありました、神坂森林事務所が三月三日に完成しました。神坂大楡を含む恵那山北部の国有林を管理する拠点として、さらに地域に親しまれる森林事務所を目指しています。



中津川市神坂



竣工した神坂森林事務所

おくりやみ申し上げます

故郷原武男氏



北信署長野森林事務所首席森林官
農林水産技官
郷原武男氏（51歳）は2月15日に
ご逝去されました。

同氏は、昭和47年長野管林署戸隠担当区事務所に採用以来、数原署、王滝署、上松署、松本署、諏訪署事業課長、伊那署治山課長、中部局計画課等の造林、生産、計画関係の業務に勤務し、活躍されてきました。
謹んでご冥福をお祈り致します。

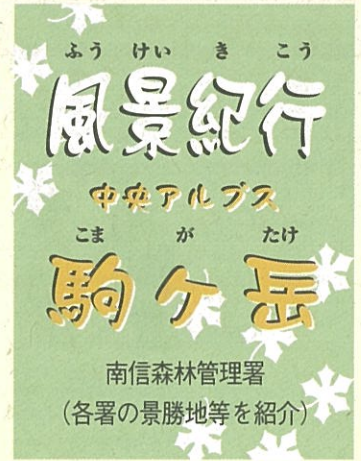
おくりやみ申し上げます

故佐藤正治氏



中信署付
農林水産事務官
佐藤正治氏（52歳）は2月22日に
ご逝去されました。

同氏は、昭和47年長野庁福利厚生課に採用以来、名古屋局、長野局南木曾署、坂下署、王滝署、数原署経営課長・業務課長、中部局森林整備課、総務課課長補佐等の造林、総務関係の業務に勤務し、活躍されてきました。
謹んでご冥福をお祈り致します。



**中央アルプス「駒ヶ岳」
南信森林管理署**

一 はじめに

木曾谷と伊那谷、二つの谷の間にそびえ立つ中央アルプス。

花崗岩の白さとハイマツの緑に包まれた美しいカール地形は中央アルプスならではのものです。

登山の途中足を止めると、そこには何千年も前から続く自然の営みがあり、私たちが黙って包んでいてくれることに気がつきます。

二 中央アルプスの概要

中央アルプスは、本州のほぼ中央に位置し、木曾川と天竜川の分水嶺をなしています。

元々は木曾山脈といわれ、南北の距離約九〇km、東西の幅約十km前後の圏内に三、〇〇〇以上の山々が連なっています。

主峰は駒ヶ岳(二、九五六m)、北は経ヶ岳(二、二九六m)から南は恵那山



宝剣岳と千畳敷カール

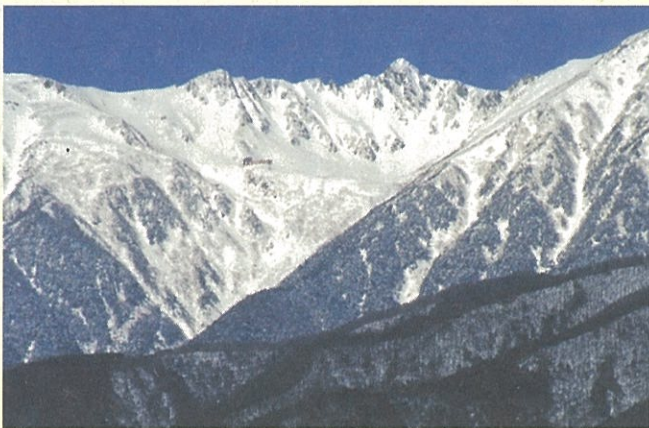
(二、一九〇m)までの長野県の南部を縦断する大きな山脈です。

中央アルプスが出来はじめたのは約百万年前といわれ、東西からの大きな圧力によって隆起を繰り返しながら現在の山脈になったとされています。

地形は急峻で標高六〇〇m以上の山麓から一気に二、五〇〇mに達しています。

谷は滝が連続する素晴らしい景観で、ふもとには山脈に平行して出来た断層による段上に急流が押し出して扇状地を造りながら、同時に中央部を削り取って造られた田切地形が多数見られます。

高山地帯には、氷河期に造られたいくつものカール地形が見られます。中でも千畳敷カールは有名で、コバイケイソウ



夏の千畳敷カール

やチングルマなどの高山植物と相まって非常に美しい景観を見せてくれます。

中央アルプスの大部分は花崗岩地帯で、崩れやすいという特徴がありますが、白砂とハイマツ、高山植物とのコントラストはとても美しいです。

今では千畳敷までロープウェイが設置され、気軽に行けるようになりましたが、空木岳、南駒ヶ岳などの南部の山々は、静かで雄大な昔ながらの山岳の良さを残しています。

この自然は過去から未来に預かったみんなの宝物です。

大自然の素晴らしさを一人でも多くの人に伝えていきたいものです。

アクセス方法

・ロープウェイ利用

○JR利用の方

JR駒ヶ根駅からしらび平まで、専用バスで

しらび平駅から千畳敷駅まで、ロープウェイで

(マイカー利用の方は中央道駒ヶ根ICで降り右折、駒ヶ根市菅の台で専用バスに乗換え、前記と同様に千畳敷駅までロープウェイで)

・徒歩(登山道)

北部に登るルートだけでも十本前後の道があり、ロープウェイ以外でも時間をかけて楽しめる登山もでき、最近再び注目されてきています。

木曾森林環境保全

ふれあいセンターの住所等の変更

〔指導普及課〕木曾森林環境保全ふれあいセンターの住所等が移転により左記のとおり変更になります。

◎住所(平成十八年四月一日より)

〒三九七-〇〇〇-一

長野県木曾郡木曾町福島五四七-一

TEL 〇二六四-二二二-二二二三

FAX 〇二六四-二二二-三二五二

(三月二十七日から)